

故吉川圭三博士の御業績をしのんで

京都大学防災研究所教授吉川圭三博士には、桜島火山観測所所長として御活躍中であつたが、去る2月初めより入院加療、鋭意回復に努められたにもかかわらず、昭和48年3月9日急逝された。ここに、故吉川圭三博士の御業績を記して、心から御冥福を祈るものである。

故吉川圭三博士の研究分野は、火山物理学とりわけ桜島火山の測地学および地震学的研究が主となっていて、歴史的には3時期に分けてみる事ができよう。

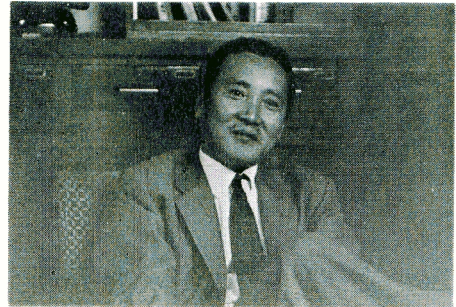
昭和26年3月、京都大学理学部地質学鉱物学科を、京都大学名誉教授熊谷直一博士（物理地質学講座担当）の指導で「釜石鉱山における磁力探査」と題する卒業論文を提出して卒業後、32年2月京都大学防災研究所に移られるまでの第1期約6年間は、京都大学名誉教授佐々憲三博士の指導のもとに、京都大学理学部地球物理学教室および阿武山地震観測所において、員外研究者あるいは作業員として勤務されるかたわら、地震学、測地学、応用地球物理学および火山物理学の勉強あるいは研究に努められた。この間各地の地回り地調査や阿蘇山の爆発調査に参加し、阿蘇火山の地盤変動の研究から最初の論文が発表され、火山物理学への第一歩をしるされた。又この期間の末期には、30年10月桜島火山の噴火活動再開を契機に、度々現地を訪れ佐々博士の指導のもとで桜島火山の観測に着手された。この第1期が吉川博士の桜島火山の研究に入られる準備期と見られるのであろう。

昭和32年6月京都大学防災研究所助手に任命されてから、37年5月助教授に昇任されるまでの第2期約5年間は、佐々博士の指導のもとに、桜島火山の恒久的観測施設の設置に従事しながら、いわゆる観測室研究室の間借り時代、横穴時代を経て、それまではほとんどかえり見られなかった桜島火山の噴火予知の研究に没頭して主に測地学的研究を推進し、37年3月には「桜島火山の最近の活動に伴う地盤変動について」（英文）と題する論文により理学博士の学位を授与され、同年5月助教授に昇任された。37年度には京都大学防災研究所附属桜島火山観測所が設立され、本館が建設されて、吉川博士の現地での努力が実った時期であるが、吉川博士の生涯で一番苦闘され、充実した時期と思われる。

昭和37年5月助教授昇任そして桜島観測所の設立から、さらに44年6月教授昇任を経て、逝去されるまでの第3期約11年間は、佐々博士と京都大学防災研究所教授吉川宗治博士の指導のもとに、現地に常駐して測地学的研究に更に地震学的研究を加えて噴火予知の研究を推進された。桜島では、引の平、小池、北岳と観測網を拡げ、黒神分室、資料館を建設され、43年のえびの地震発生に際しては、いち早く観測体制を整え地元住民の不安を解消することに努められた。44年6月に教授に昇任され、45年には吉松地震観測所を建設され、更に開聞地区に、西南諸島海域の地震活動の観測研究に当るなど、多彩な研究調査活動をされた。いわば桜島火山の観測研究を行なう一方南九州の地震、火山活動の観測研究へと発展していった時期といえよう。

吉川博士は、火山噴火予知という困難な問題に積極的に取組み研究成果をあげ、桜島火山の活動を霧島火山帯全体の動きの中でとらえようと、その観測対象を南九州に拡大し、これからその成果を期待されている折に永遠の眠りにつかれたのである。博士は噴火予知の先駆者としてわが国の火山学界において、かけがえない人であられただけでなく41年4月より日本火山学会委員、47年4月より日本学術会議地球物理学研究連絡委員として指導的役割を果たしておられ、国際的にも今後一層の活躍が期待されておられた。防災研究所としても誠に惜しむべき人を亡したものである。

（加茂幸介記）



吉川圭三論文目録

題	目	雑 誌 名	年月	共 著 者
1) 阿蘇火山の地盤変動について		地震第2輯第7巻第3号	1954	
2) 桜島における地盤変動の観測について		京大防災研年報第1号	1957	
3) 桜島における水準測量結果について (第一報)		京大防災研年報第2号	1958	
4) 桜島の地盤変動について (水準測量結果について)		火山第2集第3巻第1号	1958	
5) 桜島における水準測量結果について (第2報) 及び桜島における地盤変動観測 について(続報)		京大防災研年報第4号	1959	
6) On the Crustal Movement Accompanying with the Recent Activity of the Valcano Sakurajima (Part 1)		Disaster Prevention Res. Inst. Kyoto Univ. Bull. No. 48.	1961	
7) On the Crustal Movement Accompanying with the Recent Activity of the Volcano Sakurajima (Part 2)		Disaster Prevention Res. Inst. Kyoto Univ. Bull. No. 50.	1961	
8) 桜島に於ける地震観測について(第1報)		京大防災研年報第6号	1963	西 潔
9) 桜島の火山性地震の性質について(第1報)		火山第2集第8巻第1号	1963	和田卓彦, 加茂幸介 小野博尉
10) Geophysical Studies at Sakurajima Volcano		Geophysical Papers Dedicat- ed to Prof. Kenzo Sassa, Kyoto Univ.	1963	
11) Prediction of Vocanic Eruption Aso and Sakurajima and Some Related Geophysical Problems		Bull. Valcanologique, Na- poli, Tome 26	1963	A. Kubotera
12) 桜島火山における地震観測について (第2報)		京大防災研年報第7号	1964	西 潔
13) 火山性地殻変動		火山第2集第10巻10周年特 集号	1965	
14) 桜島火山における地震観測について (第3報)		京大防災研年報第8号	1965	西 潔
15) 桜島火山における地震観測について (第4報)		京大防災研年報第8号	1965	西 潔
16) 桜島火山における地震観測について (第5報)		京大防災研年報第9号	1966	西 潔
17) 富士山の地震活動の現状		火山第2集第12巻第3号	1967	噴火予知特定研究班
18) 口永良部島の地球物理学的調査		京大防災研年報第11号 A	1968	江頭庸夫, 西 潔
19) えびの吉松地震調査報告		京大防災研年報第12号 A	1969	西 潔
20) 桜島火山の深部地震活動について		京大防災研年報第12号 A	1969	西 潔
21) 霧島火山帯の火山活動について		京大防災研年報第12号 A	1969	
22) 南九州の地震		京大防災研年報第13号 A	1970	中村俊造
23) 奄美大島の地震活動		京大防災研年報第14号 A	1971	
24) 1972年10月2日の桜島南岳爆発概報		火山第2集第17巻第2号	1972	西 潔
25) 開聞岳附近の地下活動の現状		噴火予知研究班報告	1972	江頭庸夫, 西 潔
26) 鹿児島湾内の海上磁気測量		京大防災研年報第16号 A	1973	湯脇泰隆他
27) 桜島南岳1972年の火山活動		京大防災研年報第16号 B	1973	西 潔